

【様式 2】

学校関係者評価書

学校名 有田工業高等学校

1 学校関係者評価実施状況

- (1) 学校関係者評価実施日
 - ・令和 7 年 2 月 25 日（火）
- (2) 資料（評価の参考とした資料）
 - ・学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員対象）の結果
 - ・学校魅力化評価システムアンケート（生徒）の結果
- (3) 評価者氏名（学校ホームページへの公開は控える）
 - ・学校運営協議会委員 13 名（校長含む）

2 評価

(1) 学校運営について

①目標の妥当性及び達成状況

- ・昨年度との比較で、全体として達成度 A の数が減少していることについては、何らかの要因があると考えられる。個別の事例は別として、評価の傾向やその背景についての検討が必要ではないか。
- ・「業務効率化の推進」では、学校運営協議会の開催通知等はメールによる案内とし、ペーパーレス化を図ることができる部分がある。他の業務においても同様の無駄が発生しているのではないかと懸念している。郵送が必要なものと印刷が必要なものを仕分け、業務の効率化を図ることができるのではないか。

②学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

- ・課題研究発表会の様子がケーブルテレビで放映されていたが、このような優れた発表内容がどのように公開され、アクセス可能になるかについて疑問を持った。学校 HP には内容の詳細は掲載されておらず、発表内容についての情報が少ないと感じた。この発表会をより多くの人々に事前に告知することで、多くの人が学校の教育活動の様子を知る機会となるのではないか。

③改善方策の適切さ

- ・全体的にみて、よく取り組まれていると客観的に感じた。ただし、学校魅力化評価アンケートの結果では、全国平均より低い観点もあり不安視される要素もあるのではないかなと思う。地域特有の複合的な要因により、どうしても評価が下がってしまう部分もあるのではないかな。そのため、学校単体の評価だけでは課題が見えにくく、アンケートの結果等のデータを提示されても改善点が明確になりにくいと感じる。そこで、学校の視点から不安視される要素をある程度ピックアップしてデータを示されると、この学校関係者評価も整理しやすくなる。

(2) 教育活動について

①目標の妥当性及び達成状況

- ・目標となる成果指標は、前年度よりも向上することは理解できるが、全校マラソン大会の 3 時間以内の完走者男子 60 名などの目標は、ストイックすぎるのではないかな。

②学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

- ・「心の教育」における「生命を尊重する心の大切さが分かった」は十分達成できているのではないかな。
- ・「部活動の活性化・体力の向上」は、野球部の甲子園出場など十分活性化が図られていると感じる。マラソン大会の実施もあり、体力の向上は図られていると考える。
- ・「体力の向上」において、マラソン大会の時間内の完走者を成果指標として挙げられているが、天候によって実施が左右されることもあり、実施できても完走タイムは、天候の影響も大きいので、成果指標として掲げるのは難しいのではないかな。

③改善方策の適切さ

- ・就職面接指導について、受験を予定している企業によっては、突き詰めた質問をされる企業もある。前年度の生徒の報告を参考にして、面接の時間を少し延長するなどの対応をすることで、子どもたちの自信につながり、就職の可能性も広がるのではないかなと考える。
- ・就職面接指導に参加したが、商工会議所での経験や製造業の現場における知見を踏まえ、実際の就職試験でどのような質問がされるかを理解することの重要性を再認識した。今後、運営協議会の皆様が非常に社会経験豊富であることは大変有益だが、製造

業の現場で働いている方々や、他の業界の経験者にも指導に参加していただければ、さらに実践的な指導が可能になると考える。

3 その他学校に対する意見や提言

- ・製造業の会社の経営者及び県の業界連合会の副会長として、生徒たちの未来を考えている。特に最近では、多くの経営者と話をする中で、人材不足、とりわけ若年層の就職者が少ないという課題を痛感している。現在、有田工業会（13社）と共に、人材確保のための方策を話し合っているが、「有工生を欲しい」という意見がある。昨年、有田工業会と有工の先生方が協力し、生徒向けの工場見学会を開催し、生徒たちが工場設備に関心を持ち、積極的に質問する様子が見られた。今後も継続していきたいと考えている。